

グループホーム 鴨生の里

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		地域密着型サービスを目指して「私らしく、あなたらしく、あなたがそこにいるだけで」を柱に運営理念を実践している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		ホーム長はミーティング時、職員に理念を理解できるように説明し、実践に向けて取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		入居時、利用者や家族に説明している。又、運営推進会議において、ご家族や地域の方に説明を行っている。
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		正門前に花壇を設置し、季節の花などを植えて、立ち寄りやすい雰囲気作りに努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		2カ月おきに町内の公民館で開かれている、町内会主催のいきいきサロンに、毎回数名ずつ参加させていただいている。

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居見学に見えられた方や、いきいきサロンを通じて知り合った方に、グループホームの取り組みを説明し、知識・理解を広められるよう、こころがけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、職員全員がそれぞれの立場で作成し、取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に開き、問題点や今後の課題について話し合っている。	○	今年度も、会議を通して、出席者に今回の報告を行い、意見をいただく予定である。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所へ行く用事の際は、入居者も一緒にお連れするようにしている。また、運営面で判断に困る時など、積極的に市への相談をするよう、こころがけている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年県主催の無料講習会を受講し、資料を保管している。	○	スタッフミーティング等を通して、スタッフ間での制度の理解は深めていきたいと考えている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフミーティング等を通してスタッフ間で話し合い、防止に努めている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、利用者と家族に十分に説明し、納得してもらい、不安や疑問が起こらないように注意している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>希望や意見を気楽に言える雰囲気作りに努めている他、近隣にある同一法人の経営する老健の施設長等にも顔をつなぎ気軽に話してもらっている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の近況・行事予定は毎月定期的に「ブロッコリ通信」と一緒に報告している。個々の健康状態等は、密に家族へ連絡している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>希望や意見を気楽に言える雰囲気作りや相談箱も設置中の他、近隣にある同一法人の経営する老健の施設長等にも顔をつなぎ気軽に話してもらっている。運営推進会議を通して、家族等が自由な意見を表せる場として機能させている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の全員参加によるスタッフミーティングの他、職員の意見を反映し、利用者のためのサービスの質の向上を努めている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>予定のわかる範囲で、利用者の状態や病院受診等に応じて勤務ローテーションを組んでいる。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>一人の職員の異動や離職等が、利用者には大きなダメージを与える事がないよう、スタッフ全員が利用者の声に耳を傾け、心を開いて話していただけるような関係作りを日々目指している。</p>		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用は性別、年齢制限はない。職員は利用者とともに暮らし、生き生きと働けるようにしている。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を積極的に後押ししている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の人権を尊重したケアを行えるよう、スタッフミーティング等を通じたケアの確認の中で、声掛けや関わり方の面での配慮も話し合っている。</p>	○	<p>市主催の人権啓発を目的とした研修等があれば、積極的に参加し、地域における啓発活動を実践していきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修を積極的に受講し、職員全員で共有するための勉強会をスタッフミーティングを通して実施している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人本部と合同会議を開催し、情報公開や技術のレベルアップのための意見交換をしている。また、市の社会福祉協議会主催の社会福祉施設連絡会にも、毎年出席している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ホーム長に相談したり、職員同士で談笑してストレスの軽減に努めている。また、近隣の同一法人の老健職員とも、様々な交流に努めている。</p>	○	<p>年々重介護化が進んでおり、介護負担が増加した事は事実である。できる範囲での業務の簡素化と、モチベーションを維持・向上できる職場環境作りに努めていきたい。</p>

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月、今月の目標を定め、それに応じて、業務に取り組んでいる。	○	個々の目標も、定期的に立てて実行・反省を行ってきたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者や家族から過去の履歴を少しづつ聞き、信頼関係ができるように努力している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の希望を把握し、努力をすることで、信頼関係を築いている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のお言葉の表面的な部分だけではなく、常に奥にある本来のニーズの掘り起こしに努め、初期の対応が間違わないように、慎重に対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人と家族に何度か見学に来ていただき、ホーム側も面会に行くなどして、少しでも馴染んだ形で入居していただけるよう努力をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は家族の一員としてホームで仲良く暮らし、職員は利用者から心配されたり、励まされたりして、一緒に生活をしている。常に利用者に日常的な役割を作り出すよう、努力している。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一方的な報告をするだけにとどまらず、ケアの方法や過去の情報収集など、家族に問いかけるようにする事を心掛けている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居後の利用者と家族がいつまでも良好な関係を築けるよう、必要時は仲介役を努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が大切にしている人、物、場所を把握し、外出支援や電話や手紙での連絡の仲介を行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士がホームの中で、仲良く暮らせるよう、職員が仲介となり、レクリエーション等で関わり合いの機会を持っていただけるよう努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他施設への入所後も、時折訪問し、退居後も相談を受けている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いを充分聞いて、情報を共有し、個別ケアの確立に日々努めている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者や家族から情報を収集する事で、過去の履歴を最大限把握し、ホームの暮らしに活かしていける工夫をしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々変化する利用者の状態を介護記録等に記録し、毎日の申し送りやミーティング等で職員全員が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成は家族と職員の要望や意見を反映して作成している。必要な時には法人内老健の支援相談員、OT・PT・栄養士とも相談している。	○	日常のケアに、よりケアプランの計画内容を反映させていくための工夫をしていきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が生じた時には随時介護計画の見直し、変更を行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入し、職員全員で情報を共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況を把握し、それに応じたサービス提供が行えるよう努めている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会の活動への参加や、市が協力しているボランティア団体に慰問に来ていただく等の協力体制を築いている。	○	より一層、ボランティア等の、他の機関との協力体制を整えていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要であれば地域の他のサービス事業者と連携し、他のサービスが利用しやすい支援をしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの職員に運営推進会議のメンバーとして参加していただき、認知症共同生活介護の啓発に取り組んでいる。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と提携病院が近隣にあり、利用者の状態に合わせて受診している。また、毎週水曜日に、協力医療機関のDrの往診を受けている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	基本的には提携病院の医師に相談しているが、専門医が講師として出席される研修等には、時折参加している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師の指導で、職員全員が応急処置や健康維持に関する訓練をしている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族と一緒に入院先の病院に出向き、早期退院に向けた話し合いをしている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>鴨生の里における重度化した場合の指針を作成、家族にも説明をしている。現在のところ該当するケースには至っていない。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在のところ終末期の利用者はいないが、来るべき時に備えて、職員との話し合いをしている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>利用者や家族の希望に沿えるように、転居先へ介護サマーなどの情報提供をしている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者のプライバシーを守る為に職員全員が守秘義務に努めている。また、個人記録は目につきにくいところに保管している。</p>		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の思いや希望を聞き出す努力をしている。また、職員間で情報を共有し、声掛けなどの工夫を日々模索している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り利用者が希望する自由な過ごし方をしてもらえよう、安全の確保をベースにして支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容のさりげない支援と行きつけの理・美容室への送迎など支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者には職員と食事の準備、下膳、洗い物などをお手伝いしていただき、食事をしている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は本人の希望を取りいれて提供している。飲酒・喫煙される方は現在の所おられない。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の排泄記録を毎日取り、職員全員で把握。対応している。プライバシーの配慮をこころがけ、快適な排泄の支援を行っている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日をきめて実施している。		週3回のスタイルを崩すのは業務上困難ではあるが、希望者がいれば、決まった入浴日以外でも入浴できるほどの、業務上の余裕を作ってはいきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間は外出やレクリエーション活動等で日中の活動性を高め、夜間の良眠を促している。夜間眠れない方は職員と話したりして、気分転換から、安眠への工夫を努力している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人一人の能力・希望に合わせて役割分担を行い、楽しみながら過ごしていただくよう、努力している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近隣のスーパーや100円ショップへの買い物にお連れし、利用者にお金を払ってもらって、お金の大切さ、社会との関わりを持つ機会を作っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的に職員の外出の用事の際は、必ず利用者も一緒にお連れしている。また、個人の希望による買い物や、近隣ドライブなどで、日常的に外出の機会を作っている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行楽地へ出かけたり、毎月計画を立てて、外出の支援を行っている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の近況報告を家族の来訪時や手紙、電話で行っている。本人の希望があれば、取りついでいる。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は正門・玄関とも施錠せずに開放しているので、気軽にどなたでも訪問できる環境を整えている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。職員には周知徹底を実施している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はしていない。正門も開けている。利用者は職員の見守りのもと、自由に出入りできている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の行動パターンを把握し、安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬、洗剤、刃物は鍵のかかる所や手の届かない所に保管している。服薬時は飲み込みの確認、刃物使用時の見守りは徹底している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止対策に職員が取り組み、定期的に防災訓練を行っている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成している。職員は利用者の急変や事故に対する対処を、主にミーティングを通して日頃から話し合っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、又は防災設備の設置業者主導のもと、避難訓練を定期的に行っている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	主に運営推進会議を通して事故や急変に対するホームの現状と対応について家族に報告、相談を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	介護職員だけの判断が困難な時はかかりつけの医療機関や、非常勤の看護師に連絡を取り、指示を仰ぐ体制を整えている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人の薬の処方箋を職員が理解し、服薬の支援をしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	適度な運動を促したり水分摂取量をチェックしたりして、一人一人の排泄パターンの把握と記録に努めている。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・終身前の口腔ケアを行っている。義歯は夜間洗浄し、保管している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要時は老健の管理栄養士とも相談しながら、一人一人の状態にあわせて工夫しており、職員が摂取量を記録している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手すりやベッド柵等の定期的な消毒拭きを行っている。、食器や調理器具は、毎晩2、3種類ずつハイター消毒を行っている。その他、感染症マニュアルに応じた予防・対応をしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、食堂は衛生管理し、食材は新鮮な物を使用している。調理器具等は毎晩消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	正門前と玄関に花壇を作っており、出入りのしやすい環境作りに取り組んでいる。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光や音は利用者が快適に過ごせるように配慮している。終日オルゴール音楽や利用者世代が親しんできた歌を流している。		

グループホーム 鴨生の里

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールは吹き抜けになっていて、開放感のある空間を演出している。和室・ソファ空間・中庭の木製ベンチが憩いの場となっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼット、車椅子対応のトイレがあり、利用者の使いたれた物や仏壇など自由に持ち込んでいる。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇とエアコンを使用しつつも、定期的に窓を開閉し、臭いと空気のおよみがないよう、換気に努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に滑り止めや手すりを配置し、利用者の安全に配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者一人一人の状態を職員が把握し、支援している。掲示物の表示は高さや色、活字の大きさなどを工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には木製のベンチがあり、ホームのフェンスの外に畑を作り秋の収穫時期には利用者也参加している。		

グループホーム 鴨生の里

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム 鴨生の里

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ゆとりの時間の強化をはかり、スタッフの手の空いた時間を業務に徹するより、腰を据えて利用者とのコミュニケーションの時間に費やすよう、日々心がけている。
- ・地域との交流の強化：いきいきサロンをはじめ、ボランティアの受け入れや、地元の歌手との交流、同法人の老健施設との交流などで、外部の方々との温かい交流が増えるよう、努力している。
- ・季節に合わせた行事、入居者の誕生日会、外出ドライブなど、ホーム内の行事活動に力を入れている。
- ・医療連携に努め、緊急時に備えたマニュアルを整備し、スタッフ間で共有している。